

みどりの東北

Midori no Tohoku

vol. 86

東北森林管理局



国民のための森林づくりについて意見交換

contents

平成22年度国有林モニター会議を開催

—— 特集 | 企画調整室

国際森林年に因んだ「森を歩く」を実感!

—— 美しい森林づくり | 岩手南部森林管理署

縫道石山・縫道石の特殊植物群落

—— 我が署の名所 | 下北森林管理署



2011・国際森林年



みどりの東北

東北森林管理局では、国民の意見を反映した国民のための森林づくりの一環として、国有林モニター制度を設け、取組を進めております。

今年度は、福島県を除く東北5県にお住まいの48名の方に国有林モニターに就任していただき、東北森林管理局が行う施策や事業等について、毎月テーマを決めて資料を送付させていただきました。また、局広報誌である「みどりの東北」や林野庁の情報誌である「RINYA」も併せて送付させていただきました。

これらの資料や10月に実施した白神山地での一日巡視員としての現地見学会、年2回実施したアンケートなどを通じ、モニターの皆様からは貴重なご意見をいただいております。

こうした取組の一環として、3月11日、東北森林管理局において、国有林モニター会議を開催し、16名の



平成22年度
国有林モニター会議を開催

企画調整室

モニターの皆様に出席をいただきました。

今回のモニター会議は、これまでの会議形式を変更して、モニターの皆様から自由にご意見を出していただくようグループディスカッション形式としました。出席されたモニターの方を3班に分け、

- 1 班は、「森林を保全・管理する」
- 2 班は、「森林を保育・収穫する」
- 3 班は、「森林とのふれあいを創出



意見交換する参加者

する」をテーマに意見交換を行いました。

1 班では、主に治山事業についてパフレットの配付やクイズを実施した結果、治山ダムが何年くらいもつのかなど治山事業に関する質問が多くありました。

2 班では、木材をもつと積極的に海外へ輸出するべきといった意見や、松くい虫やナラ枯れ被害への対策についての質問がありました。



職員による説明

3 班では、森林とふれあうイベントや森林環境教育について、特に自然と接する機会が少ない今の子供たちを対象に積極的な推進を求める声が多く上がりました。

当局では、今後、これらの貴重なご意見やご提言を業務に反映していくよう検討を進めて参ります。

国有林モニターの皆様さまには一年間貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。今後東北森林管理局の活動を見守っていただき、ご理解と協力をいただければ幸いです。

最後に、モニター会議を開催中の午後2時46分に東北地方太平洋沖地震が発生し、当局管内でもたくさんの方々が被災されました。お亡くなりになりました方々のご冥福を心よりお祈りいたしますとともに、被災された皆様方にはお見舞い申し上げます。



国際森林年に因んだ 「森を歩く」を実感!

—— 岩手南部森林管理署

当署管内の「遊々の森」や東北局で初の「古事の森」では、協定を締結したNPO団体や育成協議会による森林環境教育等が活発に行われています。

今回は、昨年度の主な取組や、今年度の予定を紹介します。

● 未来の平泉を支える木に

作家・故立松和平氏が提唱した「平泉古事の森」では、昨年度、次代を担う地元小学生を対象に、「古事の森」についての学習と植樹活動を7月と9月の2回行いました。

「平泉古事の森」は、中尊寺や毛越寺などの歴史的木造建造物の修復材に必要な大径材を育てる超長期の森づくりを通じて、地域の方々と木の文化を支えていく活動を進めるものです。

「古事の森」についての学習では、各小学校でスライド等を使用し「古事の森日記」と題して、これまで植樹したヒバやケヤキの成長記録等を分かりやすく説明しました。

植樹活動では、参加した児童達は、ヒバの苗木を1本ずつ丁寧に植えて

おり、「自分達の植えた木が、将来、中尊寺金色堂の修理に使われるかもしれない」と聞いたので頑張って植えました」などの声が聞かれました。

● 放牧地を豊かな森林に蘇らせるための植樹と「森を歩く」

西和賀町貝沢地内に位置する「遊々の森」(名称・星めぐりの森)は、地元での自然観察会開催を目的に結成されたカタクリの会と協定を結んでいます。

一昨年には、隣接する大木原放牧地において植樹活動を行っています。ここは、放牧地として長年に渡り牧野組合に貸付していました。しかし、諸般の事情により返地したいとの要望があり、返地に伴う広大な面積の現状復旧には大変な労力が必要だったことから、カタクリの会がボランティアを募り、放牧地を豊かな森林に蘇らせようと植樹に取り組んでいます。

参加者からは、「昨年ポットにタネを蒔きましたが、ネズミに食べられていて、自然に戻すということはそう簡単ではないのだなと勉強になりました。これからも少しずつではありますが、

1本でも多く牧草地を森に近づけるお手伝いができればいいなと思います。」とお便りもありました。

今年、「国際森林年」ということもあり、多くの市民の方々にも参加して頂き植樹活動を行うとともに、隣接する「遊々の森」内を散策するなど「森を歩く」を実感して頂くよう取組を進めて参りたいと考えています。



放牧地での植樹



ヒバの苗を丁寧に植える児童達

巨大津波と海岸林

森林総合研究所東北支所 育林技術研究グループ

星野 大介

Daisuke Hosino

2011年3月11日午後3時頃、東北地方太平洋沖地震に起因する巨大津波が東北地方沿岸を襲い、多くの人々の命を奪い、家屋、田畑および海岸施設に甚大な被害を与えた。過去、多くの津波被害に悩まされてきたリアス式沿岸の各市町村は、津波による被害を回避、低減させるための防災設備として人工設備である防潮堤、自然設備である海岸林などを海際に配置し備えてきた。しかし、今回の巨大津波ではその多くが損壊し、保護されるべき家屋、田畑に被害が出てしまった。筆者は大地震経過一ヶ月後に、岩手県沿岸の市町村15箇所の海岸林を踏査する機会を得た。復興のための取り組みが動き出している現在、行政、住民の情報共有が必要と考えるので、この場を借りて海岸林の被害状況の一端を報告させて頂きたい。

踏査した岩手県のリアス式沿岸の海岸林は必ず防潮堤を伴っていた。海岸林は防潮堤の前か後、あるいは両方に配置されていた。構成樹種はふつうマツで、一部で広葉樹が混交しており、平均樹高は10m～25mの範囲にあったように推察した。巨大津波は防潮堤9箇所と海岸林14箇所を破壊していた。海岸林の被害範囲は、津波が通過した部分と一致しており、通過範囲の樹木は、根ごと消失、根元で折れる、あるいは傾斜するなどの攪乱状態にあった。海岸林跡地では、梢端が海に向かって倒伏、傾斜した樹木が時折観察され、引き波の影響を強く受けたものと推定できる。海岸林由来と考

えられる流木は、津波到達範囲の外縁にガレキとともに多く分布していた。普代村普代浜と宮古市宮古運動公園の防潮堤は津波に破壊されなかったものの津波の越流を許したが、後方の海岸林が越流津波を受け止めていた。田野畑村明戸で、津波は防潮堤と海岸林の両方を破壊して集落に向かったが、集落手前の屋敷林や公園樹木、並木が越流してきた津波を受け止め、家屋被害を浸水程度に留めた。

以上のことから、今回の巨大津波に対する防潮堤と海岸林は、破壊された分だけ津波のエネルギーを受け止めたとも解釈できるし、あるいは完全に受け止められなかったとも解釈できる。こうした解釈は、その場所に襲来した津波の性質や環境要因等を併せ、今後の詳細な分析が必要である。一方で、普代浜や、宮古運動公園、明戸で防潮堤の越流津波を海岸林等が受け止めた事例は、過去の報告にあるように、海外林や屋敷林等の防潮能力が、小中規模の津波に対して有効であることを改めて示していた。海岸林は防風、防砂機能を基本目的として設定されてきたが、本来、防潮機能の他に風致、鳥獣保護など多面的な公益的機能を合わせ持っている。また、生物由来であるため、破壊されても木質バイオマスとして利用することが可能であり、残骸の取扱がコンクリートより容易な利点がある。今後の復興計画では、将来の巨大津波に備えるために、防潮堤と海岸林を適切に組み合わせ配置してゆくことが非常に重要である。



破壊された防潮堤と海岸林(田野畑村明戸)



越流した津波を受け止めた海岸林(普代村普代浜)



土場集積された流木(田野畑村明戸)



みどりの東北

地域との連携による
山火事防止活動

青森森林管理署



4月15日(金)、東青地区の自治体や森林組合、当署等で構成されている東青地区山火事防止協議会は、青森市などで「山火事防止パレード」を行いました。

このパレードは、山菜採りなどで入山者が増え、山火事の発生が多い時期を前に、毎年開催しているものです。

青森県観光物産館「アスパム」前で行われた出発式では、関係者約40名が見守る中、当署職員3名が「ジェットシューター」(ジャケット式水のう袋)を背負い、消火活動のデモンストレーションを行いました。



デモンストレーションを行う職員



各地からの
便り

その後、参加者は車輛に乗り込み、東青地区の各地域でたばこの火の不始末など人為的な原因による山火事の防止を呼びかけました。

当署では、このほか航空機による消火作業を行う際に使用する空中消火器散水装置の点検を行うなど、



空中消火器散水装置の点検

あつてはならない山火事が起きた場合にも迅速に対応できるように体制を整えています。

「その油断 緑の森を 火の海に」

新モニターに
依頼状の交付

下北森林管理署



当署では、東北森林管理局の国有林モニターに選出された管内在住の方へ、その年を初年度として3年間にわたる「下北森林管理署モニター」を依頼しています。

これは、当署管内在住の国有林モニターの方から「モニターを長い期間行つて、国有林のことをもっと知りたい。また、国有林の行事に積極的に参加したい」などの意見があったこと

と、当署としても、より国有林のことを理解して頂き、様々な意見を聞くことにより、開かれた「国民の森林」にふさわしい管理経営を進めることができることから行っているものです。

今年度は4月18日(月)に、平成23年度「下北森林管理署モニター」の依頼式を行い、新たに2名の方に依頼状を交付し、当署の取組内容について説明しました。

今後、昨年度から引き続き依頼している方を含めた7名のモニターの皆さんには、森林整備や製品生産事業などの現場へ直接足を運んでもらうほか、育樹祭や国有林見学会などの当署主催行事にも参加していただき、ご意見やご要望を聞きながら、国有林野事業が地域の方々から正しく理解されるよう努めていきたいと考えています。



今年度の取組を説明

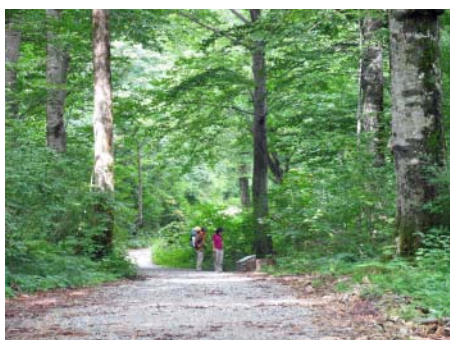
event information



みどりの東北

国際森林年記念 「ブナの森研修会」

期日 | 平成23年6月18日(土) 19日(日)
開催場所 | 山形県西置賜郡小国町
白い森ショッピングセンター「アスモ」外
開催内容 | 18日「ブナ」についての講演
「ブナ林」における活動事例発表
19日「白い郷土の森」
「温身平」ブナ林での現地研修
募集人数 | 18日80名、19日40名
参加費 | 19日の現地研修に参加される方のみ、
1500円(傷害保険料含む)
申込方法 | 所定の申込用紙(置賜森林管理署HP
<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/okitama/index.html>
から入手できます。)に住所、氏名、生年月日、
電話番号等をご記入の上、下記までお申し込み下さい。
申込期限 | 平成23年6月3日(金)
その他 | 19日の現地研修はバスを運行します。
荒天の場合は中止します。
18日の講演、事例発表後に講師との意見交換会
(参加費1500円/人)を予定しています。
参加を希望されるかたは併せてお申し込み下さい。
参加申し込み・お問い合わせ
置賜森林管理署森林ふれあい係
山形県西置賜郡小国町大字岩井沢581-45
tel.0238-62-2246 fax.0238-62-3553
または
小国町産業振興課森林振興担当
山形県西置賜郡小国町大字小国小坂町2-70
tel.0238-62-2408 / fax.0238-62-5464



カッチャバ湿原で 初夏の昆虫観察

期日 | 平成23年6月18日(土)
開催場所 | 山形県西川町 大井沢カッチャバ湿原周辺
開催内容 | 大井沢森林公園散策、
日本一小さいハッチョウトンボの観察、
茅葺の「セミナーハウス」で昼食、
大井沢自然博物館、自然と匠の伝承館見学など
募集人数 | 小中学生の親子 先着30名程度
参加費 | 大人300円(中学生含む)、子供200円
(傷害保険料、資料代等含む)
申込方法 | 電話、FAX、メールにより下記まで
お申し込み下さい。
申込期限 | 平成23年6月10日(金)
その他 | 長袖シャツ、長ズボン、運動靴または長靴、
雨合羽、帽子、タオル、飲み物、昼食等持参してください。
参加申し込み・お問い合わせ
朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター
山形県鶴岡市下名川字落合3
tel.0235-58-1730 fax.0235-58-1731
e-mail.t_syounai_f@rinya.maff.go.jp



「深緑の白神山地での 藤里駒ヶ岳登山」

期日 | 平成23年7月2日(土)

(JR二ツ井駅、藤里森林センター集合・解散)

開催場所 | 秋田県山本郡藤里町 藤里駒ヶ岳

開催内容 | 藤里駒ヶ岳の登山、
ニッコウキスゲなど高山植物の観賞

募集人数 | 20名 (応募多数の場合は抽選)

参加費 | 大人3500円、子供2000円 (中学生以下)
(傷害保険料、記念写真代等含む)

申込方法 | 往復はがきに「イベント名」を明記の上、
住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、下記まで
お申し込みください。

申込期間 | 平成23年6月16日(木) 必着

その他 | 昼食、飲料水、雨具は各自持参してください。
登山に適した服装、履物でお越しください。

集合解散場所と開催場所の間は小型バスを運行します。
悪天候等によりコース等を変更する場合があります。

参加申し込み・お問い合わせ

藤里森林センター

〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3
tel.0185-79-1003 fax.0185-79-1005



「秋田駒ヶ岳に登ろう」 第1回緑の山歩塾

期日 | 平成23年6月25日(土)

(東北森林管理局集合・解散)

開催場所 | 秋田県仙北市

開催内容 | 秋田駒ヶ岳の登山、高山植物観賞

募集人数 | 30名 (応募多数の場合は抽選)

参加費 | 大人3500円、小中学生1500円
(傷害保険料含む)

申込方法 | 官製ハガキまたはFAXに郵便番号、住所、
氏名(フリガナ)、生年月日、電話番号(連絡先)を
ご記入の上、下記までお申し込み下さい。

申込期間 | 平成23年6月6日(月)~平成23年6月10日(金)

その他 | 昼食、飲料水、雨具は各自持参してください。
登山に適した服装、履物でお越しください。

東北森林管理局にお車で越しの方は、敷地内の
駐車場をご利用ください。

集合解散場所と開催場所の間はバスを運行します。
悪天候等によりコース等を変更する場合があります。

参加申し込み・お問い合わせ

東北森林管理局指導普及課緑の普及係

〒010-8550 秋田県秋田市中通5丁目9-16
tel.018-836-2218 fax.018-836-2012



地域の重要路線を守る

庄内森林管理署 平田森林事務所

関 康春

Yasuharu Seki

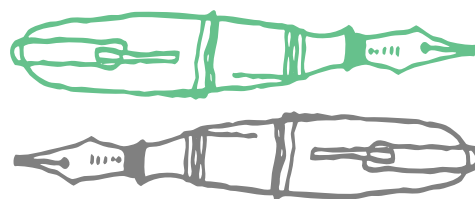
私の勤務する森林事務所は、山形県の北西部に位置する酒田市にあります。酒田市の国有林は八幡森林事務所と平田森林事務所が管理しており、私は平田森林事務所勤務しています。

平田森林事務所部内には国有林で管理する林道が11路線あります。林道とは木材を主とする林産物の搬出や造林事業等の森林整備を推進するなどの目的で開設された道路の名称です。これらの林道は、登山等のレクリエーション、田んぼや畑等の農業、隣町へ行く生活道として地域住民にも利用されており、重要な道路となっています。

このように国有林だけでなく、地域住民にとって大事な林道を維持・管理することも森林官の業務の一つです。

平田森林事務所管内は、雨の日が多く、林道の維持修繕も重要な業務の一つとなっています。毎年必ずといっていいほど林道が損壊しており、平成22年度も秋の大雨のため6路線で土砂崩れ等が発生しました。そのため雨の降った後は、各林道へ点検に行き、「土砂が崩れていないか」「路面に亀裂が入っていないか」等の安全確認を行っています。

規模が大きい土砂崩れは署に報告し請負で撤去しますが、人力で除去できる場合は森林事務所の基幹作業職員が土砂等を除去します。紅葉の時期が終われば、落ち葉が側溝



森林官からの手紙

に堆積し、水が溢れ路面を流れてしまいます。そのまま放置しておく、路面が洗掘され、崩壊してしまうので、こまめにスコップ等で除去しなくてはなりません。水を含んでいるため人力で行うのは重労働で、落石や腰を痛めないよう労働安全にも注意しながら作業しています。

また地元自治体と併用協定を結んでいる路線もあり、土砂災害時等の対応が遅れないためにも普段からの林道状況の情報共有が重要となっています。これからも国有林と地域を結ぶ重要な林道を安全に通行できるよう維持・管理していくために、地元自治体や地域住民と情報の共有、連携を図っていきたくと考えています。



大雨後、林道上を流れる沢水



林道上に滑り落ち盛り上がった土砂



土砂の除去作業



みどりの東北

「へえ〜、そうなんだ!」
樹木の赤ちゃん

岩手北部森林管理署 技術専門官

松尾 亨

Tooru Matsuo

永 年林業に携わっていても、あまり目にする機会が少ないのが、樹木の花と芽出しの稚樹です。どちらも短い期間でタイミングを見計らってその特徴をとらえるのが観察のこつです。今回はこれらの樹木の赤ちゃんについてクイズ形式で学んでみましょう。

風媒性の樹木の特徴は、春先の風を利用し遠くに花粉を飛ばすことと、種をより遠くに散布するために、飛ばす・転がる・運ばれる等の工

夫があることです。虫媒性の樹木は、春から夏にかけて花が咲き、昆虫を惹きつける花弁や、香りを持っているものが多いようです。

どちらのタイプも種子が発生する場所は稚樹の生育には重要な要素です。生き残りをかけた落下・着地・隠れ家はどんな場所がいいのでしょうか?下のクイズに出てくる6種類の樹木は、東北の森林に多く分布しています。さあ、クイズに挑戦してみましょう!

Q. 次の6枚の写真は、カラマツ・ホオノキ・ブナ・ミズナラ・イタヤカエデ・ダケカンパノ木の赤ちゃんです。どの写真がどの樹木の赤ちゃんか、①から⑥のヒントをたよりに当ててね!

- ① 写真のように帽子をかっぶって2葉で発生し、1年目は本葉2枚を出します。
- ② 最初の2葉は細長く親に似ませんが、次の2葉がへこんで親の雰囲気があるかな?
- ③ 実生の赤ちゃんはなかなか出会えませんが、日本の樹木最大の花を咲かせます。
- ④ 貯食して置くはずが……忘れちゃったか?隠した本人が食べられちゃったのか?
- ⑤ 1.5mmくらいの小さい粒が、30mの大木に。ふるさどが信州で建築材になる。
- ⑥ スキー場の残雪に十字形の種がパラパラ。樹皮は剥げやすく鯉節みたい?



①



②



③



④



⑤



⑥

クイズの答えは次のページにあるよ!

下北森林管理署

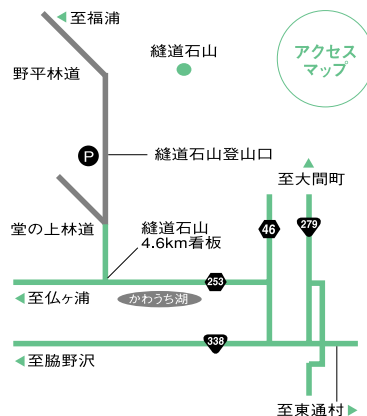
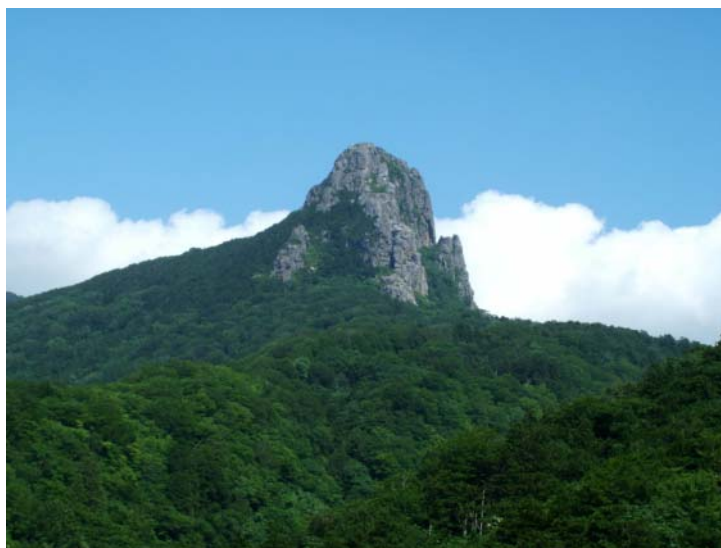
〒035-0041 青森県むつ市金曲1-4-6
tel.0175-22-1131/050-3160-5885
fax.0175-22-1134

【我が署の名所②】
青森県下北郡佐井村
「縫道石山」
縫道石の特殊植物群落



オオウラヒダイワタケ

下 北半島の佐井村に特徴的な形をした縫道石山（626m）があります。
縫道石山及び縫道石は、ヒノキアスナロ林地帯に突出する岩峰であって、岩石上にはイワタケ科に属するオオウラヒダイワタケが生育しています。本種は北米アパラチア山脈を中心とする地域に自生し、北米東部特産と考えられており、他にキザキナナカマド、コメバツガザクラ、ハクサンシヤクナゲ、ゴゼンタチバナ等も生育し、国の天然記念物に指定されており植物地理学、植物系統学上貴重な地域となっています。



●交通アクセス
むつ市より国道338号線を脇野沢方面へ向かい、川内から県道46号線、県道253号線を進み、縫道石山方面4.6kmの看板から野平林道へ入り登山口へ。登山口から山頂まで約1時間30分

縫道石山・縫道石の
特殊植物群落



●東北森林管理局のホームページをご覧ください

www.rinya.maff.go.jp/tohoku/



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために
間伐材を積極的に使用しています。